

くまびょう

109号

NEWS

くまびょう
NEWS2006年
7月1日

[発行所]

国立病院機構熊本医療センター
(前 国立熊本病院)

〒860-0008

熊本市二の丸1番5号

TEL (096) 353-6501代

FAX (096) 325-2519

心大血管疾患リハビリテーション室開設について

心臓血管センター
循環器科医長

藤本 和輝

この度、心大血管疾患リハビリテーション室が6月1日に開設されました。本年度4月以降施設認定基準の改定により、床面積が45㎡以上とこれまでの約2倍となりましたので、新しくリハビリテーションセンター内に移動しました。天井が高く、今までと比べると非



常に開放感があります。トレッドミル運動負荷装置、エルゴメーター運動負荷装置、心臓超音波装置等が設置され、心大血管疾患に対する運動負荷を施行するため、万が一の場合のために、AED（自動除細動器）、気管挿管チューブ、緊急薬品等も配備しています。医師、看護師、臨床検査技師、理学療法士がチームを組み、患者様の状態に応じてさまざまなリハビリテーションを行います。

現在は、急性心筋梗塞、急性心不全、心大血管術後など、入院患者様を中心にリハビリテーションを行っていますが、今後、外来患者様にも積極的にリハビリテーションを行い、少しでも患者様の生活の質が向上し、予後が改善できるように努力してまいります。

◆心電図判読FAX(24時間対応)
サービスのご案内

下記FAXにお送り頂いた心電図を専門のスタッフが直ちに判読し、所見をFAXあるいはお電話で御返事いたします。

心電図判読専用FAX

096-354-8533

基本理念

国立病院機構熊本医療センターは

1. 最新の知識と医療技術をもって良質で安全な医療を提供します
2. 人権を尊重し、愛と礼節のある医療の実践を目指します
3. 教育・研修・研究を推進し、医学・医療の発展に寄与します
4. 国際医療協力を通して世界人類の健康に貢献します
5. 健全経営に努め、医療環境の向上を図ります



医療制度改革の主導権は誰のもの

杉村病院

院長 吉村 龍太



当院の連携先の医療機関として第一に挙げられるのが国立病院機構熊本医療センターの存在です。多数の入院患者様を御紹介頂き、救急患者の受け入れも常に快く引き受けて頂いており感謝に堪えません。スタッフの皆様の医療に取り組まれる姿勢にはいつも頭が下がる思いです。

さて、当院も開設50周年を迎えることになり、救急医療・予防医学から介護まで、地域に貢献すべく努力致しております。しかし、今年4月の診療報酬のダウン及び高齢者医療制度改革には少な

からず不満及び将来に危惧の念を抱いております。毎年約1兆円ずつ医療費は抑制され、一応は、医療の質の向上を柱に「医療制度改革関連法」が衆議院で審議されていますが、私だけでなく医療関係者ですら、誰が医療政策の方向性を決定しているのか知らないのが現状でしょう。

これまで医療政策を仕切ってきた日本医師会や族議員などの影響力はかなり薄らいでいる感があります。診療報酬を決定する中央社会保険医療協議会（中医協）の委員構成も医師会などの関係団体の推薦制を廃止することも決定され、続々医師会の発言力が低下するのは避けられないでしょう。国も地方も財政状況は厳しく、高齢者と先端医療技術の進歩により医療費はさらに増大する。が、しかし、命にかかわる医療分野は、机上の計算で予算をカットすべきではなく国民の負担を増やすことも避けるべきと考えます。現場を熟知し、国民の意見を反映する有識者本意での審議を期待したいものです。

思いつくまま行政に対する不満を述べてきました。これも取りも直さず、小泉首相という改革好きの内閣が強いリーダーシップを発揮した結果だが少なくとも医療に関しては、今後は国民主体の慎重な対処を切望する者です。

最後になりましたが、貴院の益々の発展を祈念致しますと併に、今後とも御協力、御援助宜しくお願い申し上げます。

国立病院機構熊本医療センター開放型病院登録医証の発行について

登録医証は、共同指導の際に名札としてご利用頂けます。発行をご希望の先生は、管理課庶務係（TEL 096-353-6501 内線390）までお申し込み下さいますようお願い致します。

写真は時間内であれば当院内で撮影できますし、縦4cm×横3cmで顔全体が写っているものをお持ち頂いても結構です。

また、駐車場については、玄関前駐車場ゲートにて駐車券をお取り頂き、0番窓口（時間内）又は、時間外受付（時間外）にお申し出頂ければ、無料の手続きを致します。

開放型病院登録医証



〇〇〇 医師会
熊本 太郎

平成18年1月1日交付
国立病院機構熊本医療センター

1. 国立病院機構熊本医療センターで診療を行う場合は、この証を持参し名札として着用下さい。
2. 駐車場を利用される場合は、この証を駐車場入口で提示して下さい。
3. この証の記載事項に変更があったときは速やかに届け出て下さい。
4. この証の有効期限は3年間と致します。

新任職員紹介



精神・神経科

さか い とおる
酒 井 透

6月から精神科に勤務しております酒井透と申します。

平成14年5月に熊本大学神経精神科に入局後、同附

属病院で2年間研修ののち、熊本県立こころの医療センターで2年間精神科臨床に携わっておりました。

国立病院機構熊本医療センターは救急患者様を積極的に受け入れておりますが、平成17年度当センターでの精神科関連の救急患者様は2,200例を超えた聞き、実に身の引き締まる想いであります。

精神科単科の病院からの転勤で、何分不慣れな点があり、各診療科の先生方ならびにスタッフの方々には、何かとご迷惑をお掛けすることがあるかもしれませんが、ご指導のほど何卒宜しくお願い申し上げます。

Qスイッチルビーレーザーによるシミ・アザ治療について

ルビーレーザーによるシミ・アザ治療

当院形成外科では6月よりQスイッチルビーレーザー装置を導入し、皮膚のメラニン色素異常に対するレーザー治療を開始致しました。

レーザー治療の主な対象疾患は太田母斑、異所性蒙古斑などのあざや外傷性刺青です。茶あざ、黒あざは皮膚の中にあるメラニンが異常に増殖していて、その部分を皮膚表面から見ると茶色や黒色に見える病気です。レーザー治療は、色による光の吸収の違いと1億分の数秒の間に数メガワットという強い光の熱作用を利用し、あざの原因であるメラニンを壊します。従来、あざは皮膚を切り取って縫い合わせたり、ドライアイス当てたりする治療が行われていましたが、精神的にも身体的にも負担のかかる治療でした。そして、今まで適切な治療法がなくあきらめていたあざを、レーザーで安全に治療できるようになりました。

正常な皮膚組織をほとんど痛めません

1. 治療の際に出血したり傷跡が残ったりする心配がありません。
2. レーザー光線はX線と異なり、赤外線・可視光線領域の波長の光なので安全です。
3. レーザー照射時の痛みは、輪ゴムをはじいた程度の痛みです。貼り薬による麻酔もありますのでご安心ください。

外来通院で治療できます

1. 個人差がありますが、浅いシミやソバカスなどは1回の治療で済みます。深いシミやあざなどは、2～3ヶ月以上の間隔で平均3～5回の治療を行います。
2. 1回の照射は一瞬なので、ソバカスなどは1～2

分程度、大きなあざは15～20分程度で終了します。

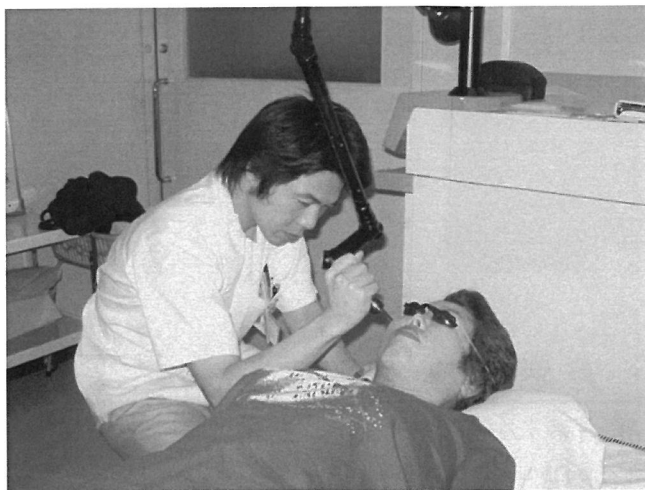
レーザー治療の保険適応について

太田母斑、異所性蒙古斑、扁平母斑、外傷性刺青などは健康保険の適用がありますが、美容目的での治療は保険適用外となっております。また色素性母斑、有毛性の母斑などの場合は従来通り手術治療の適応となります。

赤ちゃんから治療可能です

成長とともに患部が大きくなる前に、新陳代謝の盛んな赤ちゃんのうちに、治療を始めるとより効果が上がるとされています。生後5～6ヶ月以上であれば治療は可能です。また妊娠中の方はホルモンの影響でシミが濃くなりやすいので、出産後に治療を受けることをお勧めしています。

レーザー治療の導入を機に、診療レベルの向上、患者様のQOLの向上に貢献できればと考えております。今後とも一層のご指導を賜りますようお願い申し上げます。
(形成外科医長 大島 秀男)





特色

診療科の特定できない患者様の診療を行っています。専門にとらわれることなく総合的な見地からの的確な診断と治療を行い、専門治療が必要な場合はそれぞれの診療科へ紹介し、また場合によっては共同で診療しています。不明熱、全身倦怠、原因不明の体重減少などの症状、または複数の症状があり診療科を特定できない場合などが対象となります。



河野 文夫

内科一般、白血病、リンパ腫、貧血、出血傾向、膠原病
日本内科学会指導医
日本内科学会認定医
臨床修練指導医
日本血液学会指導医
日本血液学会専門医
日本臨床腫瘍学会暫定指導医
熊本大学医学部臨床教授
エジプトスエズ運河大学医学部客員教授
インフェクションコントロールドクター



清川 哲志

内科一般、白血病、リンパ腫、貧血、膠原病、移植医療
日本内科学会指導医
臨床修練指導医
熊本大学医学部臨床教授



日高 道弘

内科一般、白血病、リンパ腫、貧血、膠原病、移植医療
日本内科学会指導医
日本内科学会専門医
日本血液学会指導医
日本血液学会専門医



長倉 祥一

内科一般、白血病、リンパ腫、貧血、膠原病、移植医療、後天性免疫不全症 (AIDS)



森松 嘉孝

内科一般、びまん性肺疾患、呼吸不全、肺癌、気管支喘息
日本内科学会指導医
日本内科学会認定医
日本呼吸器学会専門医
日本呼吸器内視鏡学会専門医
日本救急医学会認定医



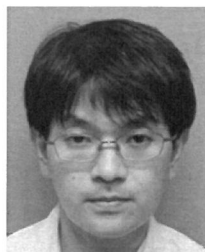
武本 重毅

内科一般、白血病、リンパ腫、貧血、膠原病、移植医療
日本内科学会認定医



宮中 敬

内科一般、血尿、蛋白尿、腎炎、ネフローゼ、腎不全、血液浄化、高血圧、電解質異常



榮 達智

内科一般、白血病、リンパ腫、貧血、膠原病、移植医療
日本内科学会認定医



児玉 章子

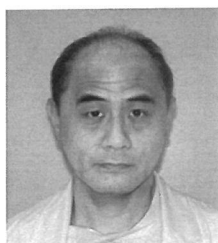
内科一般、糖尿病、高脂血症、肥満、高血圧、内分泌疾患

月曜会御案内

毎月第3月曜、午後7時より、当院地域医療研修センターホールにて、診療所及び、他病院の先生方との合同勉強会を行っています。どうぞご参加下さい。

最近のトピックス

脊椎内視鏡下手術の現況と展望



整形外科医長

橋本 伸朗

近年、外科領域において内視鏡を利用した低侵襲・最小皮切手術が時代の趨勢となっています。整形外科においては、鏡視下膝半月板手術が既に一般的な手術方法として普及しています。そして、肩、肘、股、足、手関節の治療にまで鏡視下手術の適応が広がっています。脊椎手術においても、ここ数年の間に内視鏡下手術が急速に拡がりつつあり、その手術方法の一つに、腰椎後方進入内視鏡下椎間板摘出術（Microendoscopic disectomy：MED法）があります。この方法は1997年にSmithとFoleyにより報告されたもので、図1に示すように、16～22mm径の円筒レトラクターをヘルニアの存在する椎間に向けて挿入し、25°斜視の内視鏡を円筒レトラクター内に挿入固定し、モニターの映像を見ながら、円筒レトラクター内を通して手術操作を行います。従来の直視下髄核摘出術（いわゆるLove法）と比べて傍脊柱筋の剥離を要しないため、術後創部痛が軽微で、早期社会復帰が可能なこと、手術は25°斜視鏡を用いて行うため、直視では見えない部位の脊柱管内操作ができることなどが利点としてあげられます。わが国では、1999年9月より認可されています。この手技に習熟すると、腰部脊柱管狭窄症に対する内視鏡視下除圧術も可能となります。片側進入で両側除圧が可能な上に、従来の直視下椎弓切除術に比べると、やはり術後創

痛が軽微で、出血も少なく、結果早期社会復帰が可能となり、患者様にとって利点の大きい手術といえます。

実は、2006年1月にアナウンサーの「みのもんだ」氏がこの手術を受けています。

術後1週間も経たないうちに仕事に復帰し、それが報道されるや否や、患者様から、この手術に対するお問い合わせを受けることが多くなりました。数年前から、当院でもこの手術を導入すべく準備を進めてきました。脊椎内視鏡下手術を開始するに当たり、必要な基本の手技を習得するための実技講習会や手術研修に参加し、2006年4月からは、MED用の円筒レトラクターより、一回り大きい26mm径の楕円形レトラクターを使用して直視下手術を開始しています。そしていよいよ、2006年6月に最新の内視鏡下手術機器を導入致しました。必ずや患者様の御期待に添えるものと確信しております。

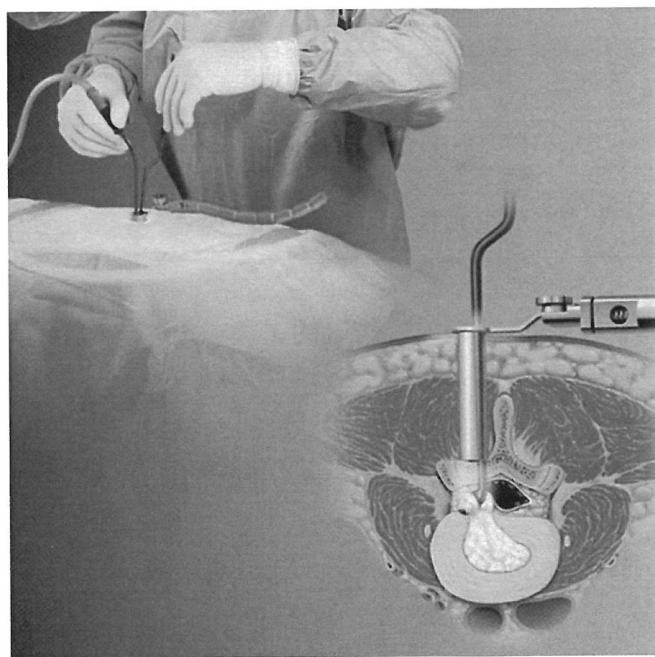
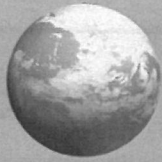


図1 MED法

ホームページをご利用下さい。診療、研修、研究など情報満載です。

国立病院機構熊本医療センター ホームページアドレス <http://www.hosp.go.jp/~knh/>



国際医療協力

平成18年度 第1回子どもの死亡削減と国際協力セミナーコース

国立病院機構熊本医療センターは、国内唯一の国際医療協力基幹施設として、JICA（国際協力機構）、ACIH（国際保健医療交流センター）及び熊本県と連携し、積極的に国際医療協力を推進しています。

平成18年5月20日より6月24日まで「平成18年度第1回子どもの死亡削減と国際協力セミナーコース」にバングラデシュをはじめ9カ国10名が、当院の研修棟に宿泊しながら研修を行いました。

本コースは、昨年度まで「母子保健指標改善対策」の集団研修コースの名称で行われていた研修ですが、今年度よりその名称を変更し、日本の母子保健対策事業の歴史的経緯の状況を分析また実地を観察し、その対策の利点・難点を見極め、自国の母子保険対策事業の改善に役立てることを目的とした研修となりました。

（文責：庶務班長 上園 直仁）

【平成18年度 第1回子どもの死亡削減と国際協力セミナーコース】

2006.5.20～6.24

氏 名 (国 名)	職 業 ・ 所 属 等
Dr. ジャヒルル ハック (バングラディシュ)	保健省 下痢疾病管理計画 次長
Dr. リュウ リー (中国)	中国医科大学公衆衛生学部 栄養食品衛生学科 講師
Dr. ジーラ タヴァレス ヴィジャマン (ドミニカ)	厚生省 公衆衛生部 MDG対策課 調整官
Ms. ジョセフィン ペイシャンス ボイドク (ガーナ)	プリンセス メアリー ルイズ病院 看護師長
Dr. グレイリー リスベス グラマホ モラレス (グアテマラ)	西部地区病院 産婦人科 医師
Dr. ホセ アルベルト セケイラ ヴァネガス (ホンジュラス)	母子病院 公衆衛生部 救急科 小児科医
Dr. エルナ ムラティ (インドネシア)	保健省 地域保健局 小児保健部 5歳以下及び就学前児童保健課長
Ms. ワラ パルティウィ オースティン (インドネシア)	保健省 女性保健ケア部 合併症予防母体保健課 監視評価係長
Dr. クヌーニ ハーリア (モロッコ)	保健省 ラバト小児病院 新生児科 小児科医

楽しく学ぶ基礎看護技術講座のご案内

目的：安全で安楽な看護を提供するために必要な技術や、観察、判断、実践能力を高め、より質の高い看護サービスを提供する。

日時・内容：

開催日	テ ー マ	講 師
7月8日(土) 10:00～ 12:00	気管内挿管をしている患者のケア ～口腔ケア・清拭・洗髪・ 更衣・体位の工夫～	ICU 徳永雄規師長
9月16日(土) 10:00～ 12:00	経口摂取が困難な患者の看護 ～経管栄養中の患者のケア～	消化器科 中田成紀医師

方法：①講義

②デモンストレーション及び実習

対象：看護師

場所：国立病院機構熊本医療センター附属看護学校
実習室

〈お申込み方法〉

往復葉書に①テーマ②受講希望者人数③所属病院名、住所、電話番号④代表者名をご記入の上、開催日の2週間前までに下記あてお送り下さい。

宛先：国立病院機構熊本医療センター看護部
「楽しく学ぶ基礎看護技術講座」受付係

実技が主の講座になります。多数のご参加をお待ちしております。

研修のご案内

第59回 三木会（無料）

（糖尿病、高脂血症、高血圧を語る会）

〔日本医師会生涯教育講座3単位認定〕
〔糖尿病療養指導士認定更新0.5単位認定〕

日時▶平成18年7月20日(木)19:00~20:45

場所▶国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

1. 意識障害、けいれん、左片麻痺を呈したMELASの一例

国立病院機構熊本医療センター脳神経センター神経内科 幸崎弥之助、田北 智裕、俵 哲

2. 生活習慣病に対するサプリ・機能性食品 ―知ってるようで知らない世界―

国立病院機構熊本医療センター心臓血管センター循環器科

村上 和憲、福嶋隆一郎、田中 朋子、宮尾 雄治、藤本 和輝

3. 経管栄養糖尿病患者さんに対するインスロウの影響

くまもと成仁病院院長 上原 昌哉

なお、興味のある症例、疑問・質問のある症例がございましたら、お持ちいただきますようお願い致します。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター総合医療センター内分泌・代謝内科 小堀 祥三・東 輝一郎 TEL 096-353-6501 (代表) 内線796

第204回 初期治療講座（会員制）

〔日本医師会生涯教育講座5単位認定〕

日時▶平成18年7月22日(土)15:00~18:00

場所▶国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

「皮膚腫瘍の診断と治療」

座長 熊本市医師会 藤澤 明詔

1. 皮膚腫瘍の診方

国立病院機構熊本医療センター皮膚科医長 萱島 研一

2. 皮膚腫瘍の手術療法

国立病院機構熊本医療センター形成外科医長 大島 秀男

3. 皮膚リンパ腫および皮膚白血病の診断と治療

N T T西日本九州病院皮膚科部長 城野 昌義

この講座は有料で、年間10回を1シリーズ(年会費20,000円)として会費制で運営しています。但し、1回だけの参加を希望される場合は会費5,000円で参加いただけます。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501 (代表) 内線263 096-353-3515 (直通)

第90回 月曜会（無料）

（内科症例検討会）

〔日本医師会生涯教育講座3単位認定〕

日時▶平成18年7月24日(月)19:00~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

1. 胸部X線写真供覧

国立病院機構熊本医療センター総合医療センター呼吸器内科医長 森松 嘉孝

2. 持ち込み症例の検討

3. 症例提示「偽性副甲状腺機能低下症の一症例」

国立病院機構熊本医療センター総合医療センター内分泌・代謝内科 市原ゆかり

4. ミニレクチャー「急性心筋梗塞の治療」

国立病院機構熊本医療センター心臓血管センター循環器科 田中 朋子

日頃、疑問の症例、興味のある症例、X線写真、心電図等がございましたら、ご持参下さいますようお願い致します。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター副院長 河野 文夫 TEL: 096-353-6501 (代表) FAX: 096-325-2519

第83回 総合症例検討会（CPC）

〔日本医師会生涯教育講座5単位認定〕

日時▶平成18年7月26日(水)19:00~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

テーマ：意識障害と呼吸不全で救急入院となった70歳代男性（症例 70歳代、男性/主訴 意識障害、呼吸困難）

臨床担当) 国立病院機構熊本医療センター腎センター長 富田 正郎

病理担当) 国立病院機構熊本医療センター臨床研究部臨床病理室長 村山 寿彦

「意識障害と呼吸障害のために救命救急センターに救急搬送され、急激にショック状態となり死去した。」

* 意識障害の鑑別診断と臨床経過について、詳細な検討を行います。最後に病理よりマクロ、ミクロの所見と剖検診断が解説されます。馴染みの少ない疾患、病態は、その分野に関するミニレクチャーを予定しております。基本的知識を学んだ後で活発なディスカッションをお願い致します。どなたもお気軽に御参加下さい。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501 (代表) 内線263 096-353-3515 (直通)

平成18年 研修日程表 7月

国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

7月	研修ホール	会議室	その他
3日(月)			8:00 MGH症例検討会 C 16~18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17~18 小児科カンファレンス 外来
4日(火)		18:00~19:30 血液病懇話会(図)	8:00 救急部カンファレンス C 15~18 外科術前術後症例検討会 C
5日(水)		16:00~18:00 皮膚科組織検討会(図)	17:00 消化器疾患カンファレンス C
6日(木)			7:50 整形外科症例検討会 C 17~19 循環器カンファレンス C 18~19 代謝内科カンファレンス M
7日(金)			8:00 消化器病研究会 C 8:00 麻酔科症例検討会 手 17~18 救急部カンファレンス C
8日(土)		15:00~18:00 熊本地区核医学技術懇話会	10~12 楽しく学ぶ基礎看護技術講座 学校
9日(日)	9:25~15:40 第21回 臨床薬理セミナー《会費制》 「がん治療と疼痛管理について」 1. がんの内科的治療について 2. がん治療の最前線 3. がん疼痛管理と今後の展望について 4. がん薬物療法と服薬指導について	第21回 臨床薬理セミナー《会費制》 [日本医師会生涯教育講座5単位認定] [日本病院薬剤師会生涯研修3単位認定] 国立病院機構熊本医療センター呼吸器内科医長 森松 嘉孝 熊本大学大学院医学薬学研究所消化器外科学教授 馬場 秀夫 北里大学医学部麻酔科講師 的場 元弘 静岡県立静岡がんセンター薬剤部薬剤長 篠 道弘	
10日(月)			8:00 MGH症例検討会 C 16~18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17~18 小児科カンファレンス 外来
11日(火)	19:00~20:30 熊本県臨床衛生検査技師会 一般検査研究班月例会	18:00~19:30 血液病懇話会(図)	8:00 救急部カンファレンス C 15~18 外科術前術後症例検討会 C 19~21 泌・放射線科合同ウログラム C
12日(水)		16:00~18:00 皮膚科組織検討会(図)	17:00 消化器疾患カンファレンス C
13日(木)			7:50 整形外科症例検討会 C 17~19 循環器カンファレンス C 18~19 代謝内科カンファレンス M
14日(金)			8:00 消化器病研究会 C 8:00 麻酔科症例検討会 手 17~18 救急部カンファレンス C
15日(土)	13:30~16:30 第103回 看護卒後研修《会費制》 「医療従事者としての接遇」		
18日(火)		18:00~19:30 血液病懇話会(図)	8:00 救急部カンファレンス C 15~18 外科術前術後症例検討会 C
19日(水)		16:00~18:00 皮膚科組織検討会(図)	17:00 消化器疾患カンファレンス C
20日(木)	19:00~20:45 第59回 三木会 (糖尿病、高脂血症、高血圧を語る会) [日本医師会生涯教育講座3単位認定] [糖尿病療養指導士認定更新0.5単位認定]	19:30~21:00 有病者歯科医療研究会	7:50 整形外科症例検討会 C 17~19 循環器カンファレンス C 18~19 代謝内科カンファレンス M
21日(金)			8:00 消化器病研究会 C 8:00 麻酔科症例検討会 手 17~18 救急部カンファレンス C
22日(土)	15:00~18:00 第204回 初期治療講座《会員制》 「皮膚腫瘍の診断と治療」 1. 皮膚腫瘍の診方 2. 皮膚腫瘍の手術療法 3. 皮膚リンパ腫および皮膚白血病の診断と治療	第204回 初期治療講座《会員制》 座長 熊本市医師会 藤澤 明昭 国立病院機構熊本医療センター皮膚科医長 萱島 研一 国立病院機構熊本医療センター形成外科医長 大島 秀男 N T T西日本九州病院皮膚科部長 城野 昌義	
24日(月)	19:00~20:30 第90回 月曜会(内科症例検討会) [日本医師会生涯教育講座3単位認定]		8:00 MGH症例検討会 C 16~18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17~18 小児科カンファレンス 外来
25日(火)	18:30~20:30 血液研究班月例会	18:00~19:30 血液病懇話会(図) 19:00~21:00 小児科火曜会	8:00 救急部カンファレンス C 15~18 外科術前術後症例検討会 C
26日(水)	19:00~20:30 第83回 総合症例検討会(CPC) [日本医師会生涯教育講座5単位認定] 「意識障害と呼吸不全で救急入院となった70歳代男性」	16:00~18:00 皮膚科組織検討会(図)	17:00 消化器疾患カンファレンス C
27日(木)		19:00~21:00 熊本脳神経疾患懇話会	7:50 整形外科症例検討会 C 17~19 循環器カンファレンス C 18~19 代謝内科カンファレンス M
28日(金)			8:00 消化器病研究会 C 8:00 麻酔科症例検討会 手 17~18 救急部カンファレンス C
30日(土)	8:50~14:00 第13回 膝関節セミナー《会費制》 1. 膝関節鏡視下手術の適応と限界 2. MIS~人工膝関節置換術の現状と課題 3. 肺塞栓症予防-リスクマネジメントの観点から 4. 小児の膝関節疾患	第13回 膝関節セミナー《会費制》 [日整会4単位認定(スポーツ1単位・リウマチ1単位含む)] 善衆会病院群馬スポーツ医学研究所所長 木村 雅史 近畿大学医学部整形外科助教授 赤木 将男 熊本中央病院整形外科医長 阿部 靖之 熊本大学大学院医学薬学研究所運動骨格病態学教授 水田 博志	
31日(月)			8:00 MGH症例検討会 C 16~18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17~18 小児科カンファレンス 外来

(図) 図書室 C 病院本館2階カンファレンス 手術室控室 臨 臨床研究部会議室 別6 別6病棟 外来 小児科外来 M ミーティングルーム 学校 看護学校

問い合わせ先 〒860-0008 熊本市二の丸1番5号 国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

TEL 096-353-6501(代)内線263 096-353-3515(直通)